

## 平成22年度 学校評価（最終評価）結果

小松市立 苗代小学校

	自己評価				学校関係者評価		今後の方向（改善計画等）
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況	達成状況	学校関係者評価者による意見	
① 組織的な学校運営	<p>&lt;組織的な学校経営&gt; 二つの主任会議（運営協議会、指導協議会）を機能させ、主任のリーダーシップのもと、学年会・校務分掌部会の充実を図る。</p> <p>&lt;危機管理&gt; 危機管理に関する研修、緊急時を想定した訓練を実施し、危機管理に関する意識を高める。</p>	<p>【成果指標】 運営協議会、指導協議会が毎月定期的に開催され、機能し成果を上げている。</p> <p>【努力指標】 講習や訓練を通して職員の危機管理意識が高まっている。</p>	<p>運営協議会、指導協議会の開催が A： 定例化した（100%以上） B： ほぼ定例化した（80%以上） C： 定例化は不十分（70%以上） D： 定例化は不十分（70%未満）</p> <p>職員の危機管理意識が A： 十分高まっている B： 高まっている C： あまり高まっていない D： 高まっていない</p>	<p>運営協議会は月1回以上、指導協議会もほぼ月1回開催され定例化が進んでいる。協議する内容の深まりも見られる。</p> <p>年間5回の避難訓練を計画通り実施することができた。防犯訓練は、警察の方に講師として来ていただき、今後に向けて助言を受けることもできた。</p>	B	<p>・「訓練あるのみ。」今後もAEDや人工呼吸の訓練も含め取り組んでほしい。</p>	<p>・次年度は、2つの協議会を年度当初より月曆に位置づけ、更に定例化を図る。また、分掌部会での協議の能率化に生かせるようにしたい。 ・職員アンケートでは90%を超える職員がBであった。Aとなるためには、避難方法や避難場所に課題があり、新たに提案していく必要がある。避難訓練内容も少しずつ違った形を取り入れたい。また職員訓練も大切にしたい。</p>
	<p>&lt;授業改善&gt; 情報活用能力とコミュニケーション能力伸張のため、算数科と理科（生活科）を中心に言語活動の指導の充実を図る。</p> <p>&lt;教育課程&gt; 新教育課程移行期であることを踏まえ、新学習指導要領の趣旨と内容を正しく捉え、全面実施に備える。</p> <p>&lt;学力向上&gt; 学力の向上を図るため、指導法を工夫し、きめ細かな指導や個に応じた指導を行う。</p>	<p>【努力指標】 算数科と理科（生活科）を中心に授業の中に言語活動を取り入れ授業展開をしている。</p> <p>【努力指標】 計画的に、かつ、漏れがないように今年度の学習内容を実施し、次年度の教育課程を組み立てる。</p> <p>【努力指標】 前年度の学力分析を活かしながら、児童の実態を把握し学力向上プランに反映するとともに少人数指導を取り入れ、個に応じたきめ細かな指導を行う。</p>	<p>取り組み状況が A： 算数、理科を中心に他教 B： ほぼ取り組んでいる C： あまり取り組んでいない D： 取り組んでいない</p> <p>取り組み状況が A： 100% B： 90%以上 C： 80%以上 D： 80%未満</p> <p>少人数授業によって、算数の学習がよく分かる、分かったと答えた児童が A： 90%以上 B： 80%以上 C： 70%以上 D： 70%未満</p>	<p>中間評価ではAであったため、達成度判断基準を「効果があった」まで上げた。教師アンケートにより、理・算では、ねらいに迫るため意識して言語活動に取り組み、効果があったという結果でありB評定とする。</p> <p>1学期の職員アンケートの状況は実施見込みの単元もあり、達成状況はBであった。その後、今年度中に実施しなければならない内容についてチェックを行うなど働きかけを行ってきた。全て実施できている。</p> <p>3、5、6年の算数科で各学級二人の教師で少人数授業を行っている。支援員が支援に入っている学級もある。アンケート結果は「よく分かる」「分かる」合わせて計90%となりA評定であった。</p>	B   A		
③ 豊かな心の育成	<p>&lt;児童理解&gt; 特別な理解と対応を必要とする児童に対して、全職員もしくは部会において「児童理解の会」や「校内委員会」を開催し、共通理解をはかる。</p>	<p>【努力指標】 児童理解と支援のために全職員で話し合い、十分な共通理解の下で一貫した指導にあたっている。</p>	<p>会合を通して該当児童の理解、支援、指導に有効であったと実感できる職員の割合が A： 90%以上 B： 80%以上 C： 70%以上 D： 70%未満</p>	<p>不登校児の現状の理解、発達障害に関する理解など、全職員で情報を交換できたことが、有意義であった。職員アンケート結果、達成率はAであった。</p>	A	<p>・教師サイドのアンケートだけでなく、保護者のアンケートもとり、保護者との意思疎通を図るようにしてほしい。</p> <p>・道徳の時間を心待ちにする、道徳が大好きになってほしい。</p>	<p>・改善点としては、十分な時間を確保する工夫が必要である。また、学校全体としての児童の特徴と指導方針の確認も取り入れたい。</p> <p>・本年度の取り組み状況から資料の差し替え等、指導計画の見直しを実施し、取り組み易い資料を開拓、提供したい。</p> <p>・読書の時間の確保、イベント企画など今後も継続して取り組みたい。また、チャレンジ10冊の声かけや月目標にも取り組みたい。</p>
	<p>&lt;道徳教育&gt; 教科、領域との関連が図られた全体計画・指導計画のもと、道徳の時間を要とした道徳教育が行われている。</p>	<p>【努力指標】 内容項目を偏りなく的確に指導している。</p>	<p>内容項目の指導割合が A： 100% B： 95%以上 C： 90%以上 D： 90%未満</p>	<p>各学期末に内容項目について実施状況を確認するアンケートを実施した。また、年一回は保護者の公開の場を設けてきた。</p>	A		
	<p>&lt;読書教育&gt; 図書館行事の企画、朝読書や読書の時間の確保により、図書館へ足を運びやすい環境を整える。また、意欲を持たせる手立てにより、本好きな子の育成に努める。</p>	<p>【成果指標】 読書に興味を持ち、図書室利用が増えている。</p>	<p>年間児童一人あたりの読書量が A： 45冊以上 B： 40冊以上 C： 35冊以上 D： 35冊未満</p>	<p>読書の時間の確保、クイズ、チャレンジ10冊などの取り組みで貸し出し冊数が増えた。3月17日現在貸し出し冊数は一人当たり約44.4冊である。</p>	B		
④ 健やかな体の育成	<p>&lt;健康教育&gt; 家庭との連携により、児童の健康に関する意識を高めることに努める。</p>	<p>【成果指標】 保護者と連携した具体的な手立てにより、疾病治療率が向上している。</p>	<p>むし歯治療率が A： 90%以上 B： 85%以上 C： 80%以上 D： 80%未満</p>	<p>87%の治療率であった。保健便りや個人宛カードを出して治療を促してきた。個人懇談では懇談の話題にも挙げた。完治した学級は昨年より増えている。</p>	B	<p>・スポチャレはいろいろな種目があれば、いくつかチャレンジしたらよい。</p> <p>・家庭の協力を得て、好き嫌いをなくしっかり食べ、丈夫な体をつくってほしい。</p>	<p>・治療率は昨年度より向上している。引き続き粘り強く保護者に治療の大切さを訴え、取り組んでいきたい。</p> <p>・来年度は1学期の取り組みも、その後に何か結び付くように行事を考え、教師、児童の意欲を高めていく。</p> <p>・職員アンケートでは5回を超えたものが全体の90%、教師は食に関する指導を意識して実施できており、さらに児童に自発的に食への望ましい行動が取れるように継続指導していききたい。</p>
	<p>&lt;体力づくり&gt; 体力づくりに関する指導実践を通して、児童の望ましい生活習慣や行動につなげる。</p>	<p>【成果指標】 体力づくりを計画的に全校の取り組みとして行っている。</p>	<p>いしかわスポチャレ月1回実施率が A： 90%以上 B： 80%以上 C： 70%以上 D： 70%未満</p>	<p>2学期は大縄大会に結び付いていたことや掲示の効果もあり、どの学級も月1回以上の取り組みができ、1学期の結果と合わせ84%の実施率となった。</p>	B		
	<p>&lt;食育の推進&gt; 食に関する指導が児童の望ましい習慣や行動につながるよう推進する。</p>	<p>【成果指標】 学級活動や給食の時間等の時間を活用し、食育が計画的に行われている。</p>	<p>食育の指導の取り組みが1学級につき年間 A： 5回以上 B： 4回 C： 3回 D： 2回以下</p>	<p>年1回の栄養教諭とのTT授業とセレクト給食、食育の日、給食週間での指導を含め、年間を通して実施できた。</p>	A		
⑤ 家庭・地域との連携	<p>&lt;学校改善&gt; 保護者や地域、関係機関との連携による情報・意見や学校関係者評価委員会による助言などを学校改善に生かす。</p>	<p>【努力指標】 保護者、委員等の意見に対して学校が検討する機会を設け、発信する取り組みが行われている。</p>	<p>取り組みができていると実感する職員が A： 100% B： 80%以上 C： 70%以上 D： 70%未満</p>	<p>保護者の意見に対して検討し、学校だよりで発信することができた。評議員の方やPTA企画委員の方々のアンケートは好意的な意見が多かった。職員アンケートは88%の人ができていると答えB評定だった。</p>	B	<p>・学級や学年だより、連絡帳など丁寧な家庭と連携を取ることが大切。 ・有線をもっと活用してもよい。</p>	<p>・次年度は保護者や委員の方々の意見を伺う機会を年間計画の中で計画的に位置づけた。また、いろいろな意見を出して頂く為には情報発信にも力を入れていく必要がある。</p>